

【 山陰インバウンドニュース 2月号 】

令和 5 年 2 月 28 日
(一社) 山陰インバウンド機構

セミナー 「観光関係者等を対象とした観光地域意識調査について」参加者募集

当機構では、今後の反転攻勢に向けた基盤構築やアフターコロナにおける新しい観光施策について、地域のみなさまとともに学び、実施していきたいという思いより、インバウンド事業の追い風となるよう定期的にセミナーを開催しています。

この度、公益社団法人日本観光振興協会 岩本様にご講演いただき、アンケート調査「Destination NEXT」の調査結果をもとに、山陰の強みや課題等、他地域の調査結果などと比較しながら現状についてお話いただきます。

本セミナーを自治体・DMO・観光事業者さま等、今後のインバウンド施策の一助にさせていただきたいと考えております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

◇日時：3/16 (木) 16:00~17:00

◇演題：「観光関係者等を対象とした観光地域意識調査について

—観光地域診断ツール Destination NEXT の概要及び山陰エリアでの調査結果から—

◇講師：公益社団法人日本観光振興協会 審議役 岩本 裕美 氏

◇参加費：無料 (ただし、Web サービスへの登録が必要です)

◇開催方法：Web サービス「ZOOM」のウェビナー機能を利用。

◇登録先：

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_LfuAtkDLS6ecJgasHA8iYQ



台湾で行われた「日本山陰地区旅行業観光商談会」に参加しました

2/7 (火) 中海圏道湖大山圏域観光局主催の「日本山陰地区旅行業観光商談会」(台北市内) に当機構も参加しました。

当日は台湾側の参加者は旅行会社・メディアなど66社(約90名)。山陰側(中海圏域)は、宿泊・観光・交通・観光協会・行政など30を超える施設や団体が参加。当機構は山陰の情報やDAJPを紹介すると、台湾側参加者とやり取りする中で日本への旅行の動向等有意義な情報を得ることができました。

「今は航空座席が少なく、料金が高く、行きたくても行けない人もいます。」「コロナ以前比で訪日旅行日程は短い。これは久々の訪日旅行で東京、大阪に買い物や施設訪問など特定目的のために行く方が多い。待ちに待った、という感じ。」「この状況が落ち着き、航空座席提供が増え、地方就航も増えれば、ゴールデンルート以外の地方目的の旅行や、滞在日数も延長する傾向になると思う。」「コロナ後に山陰だけでなく、宿泊予約が取り難い状況が続いている。」など様々なご意見を聞くことができました。また、PKG向けに、宿泊施設の具体名を示し、紹介依頼をしてきた旅行会社もあり、日本への旅行の機運が増していることを改めて現場で実感することができました。

その他、翌日は台中市にて松江市観光商談会にも参加しました。今後コロナが落ち着くにつれて、いろいろなPRの機会が増えるため、現地での情報をもとに、より山陰に効果的な誘客ができるよう努めてまいります。



セミナー『山陰地方と関西国際空港のつながりと今後について』 開催報告

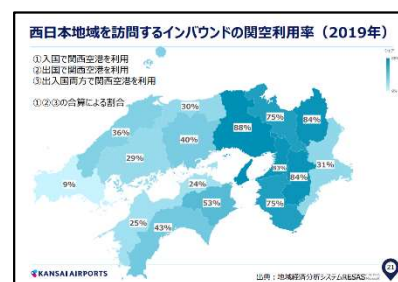
2/8 (水) 16:00~17:00 に山陰インバウンドセミナーを実施しました。今回は関西エアポート(株) 渉外本部 地域連携部長 北林弘幹さまに関西国際空港 (以下、「KIX」) の現状と、KIX の取組紹介、山陰との今後の連携について、お話いただきました。KIX は、インバウンドが「どこを訪問するか」を選択することによって、結果的に空港が選ばれ、利用されるという「目的地空港」としての特徴が強いこと、また KIX から入国するインバウンドを、より山陰へ誘客するためには、空港を利用される前の“旅マエの情報提供”がとても重要である旨が伝えられました。また 2025 年の大阪・関西万博とその先を見据え、インバウンドの受け入れキャパシティ拡大を目指し KIX で実施しているターミナルリノベーション工事についてもご説明されました。

当日は山陰内外より約 70 名が参加され、質疑応答では KIX から地方へのアクセス方法や、講座で投影された統計に関する質問などがありました。また、山陰との連携については、「KIX からのお客様の特徴等、必要な情報を共有して一緒に議論し、誘客の糸口を見つけることが一番効果的な連携方法ではないかと感じる。“地域が空港をどう使うか”、まさに一緒に考えることができればと思うので、ぜひ今後も密に山陰地域のみなさまと連携していきたい。」と今後の連携も呼びかけられました。

終了後のアンケートでは、「関空から鳥取県に多くの外国人旅行者が来られているのはわかっていたが、こうしてデータで見ることができたのは面白かった。」「漠然と関西万博に向けた準備が必要と考えていたが、具体的な空港利用・レンタカー利用の実態について聞くことができ、非常に大きな気付きがあった。」「山陰地区への誘客に関して、ぜひ連携を図りたい」と好評の声を多数いただきました。また、「関西に滞在する外国人に観光や食をどうアピールし、来訪に繋げるか次回は具体的な方法が知りたい」「米子空港の話も聞きたい」「引き続き大阪万博を見据えた誘客についてのセミナーを継続してほしい。」など、今後のセミナーへのご要望もいただきました。皆様からいただいたご意見を参考に、今後も継続してセミナーを実施していきたいと思っております。

KIX は山陰地域においても、重要なゲートウェイです。今回のご縁を活かし、観光振興の底上げになるよう、今後山陰を取り巻く事業者さまと関西エアポート(株)さまの橋渡しができればと思っています。本セミナーに限らず、様々な場面で連携できればと思いますので、引き続き事業者さまのご協力をよろしくお願いいたします。

関西国際空港 (KIX) <https://www.kansai-airport.or.jp>



山陰まんなか観光局公認アンバサダーの web マガジン「ココビトの綴り」

(一社) 中海・宍道湖・大山圏域観光局が運営する観光情報サイト「山陰まんなか観光局」は、圏域の見どころ、自慢の食、伝統文化など、旅する魅力を様々な形で紹介しています。今回ご紹介するのは「ココビトの綴り」。この企画は、事業でご縁のあったインスタグラムのユーザーの方を「山陰まんなかアンバサダー」として認定し、「ここが好き!」「こんなことを知ってほしい!」というオススを WEB で情報発信しているものです。観光地だけでなく、地酒のオススや手仕事、地元のスイーツなども掲載されており、観光パンフレットでは表現できないお客様目線でのきれいな写真とともに、アンバサダーが本当に好きなスポットを紹介されていることがわかる暖かい文章が掲載されています。自然スポット等の紹介のほか、これから訪れる人に大事なポイント“近くにトイレがない”等、親切なコメントも。

ぜひ山陰好きが集まった「ココビトの綴り」をご覧ください。

ココビトの綴り <https://ambassador.sanin-mannaka.jp> 山陰まんなか観光局 <https://www.sanin-mannaka.jp>



『山陰まんなか』とは？

中海・宍道湖を囲む 5 市 (出雲市・松江市・安来市・米子市・境港市) と霊峰大山圏域の 7 町村 (日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町) を含むエリア。このエリアを“山陰まんなか”と称し、連携した魅力発信等を行っています。

山陰ツーリズム人材育成塾 モニター検証会&最終報告会

「山陰ツーリズム人材育成塾」は、観光地域づくりに携わる主体をつなぐ資質・能力を持つ人材を育成し、地域経済の活性化を図ることを目的に、当機構と島根大学が連携し令和3年度からスタートした観光人材育成事業です。今年度仕上げに向け、塾生の動きをご紹介します。

【モニター検証会】2/9（木）11:00～15:00 @ゆらく（米子市）

検証の題材となったのは、塾生15名のうち2名の取組です。1つは、米子市の観光活性化の為に「さばしゃぶで米子市をリブランディング」する取組の中心である「さばしゃぶ」です。もう一つが、玉造温泉の活性化を提案する「玉造温泉×湯治プロジェクト」における「薬膳茶」です。

当日は、専門家1名、講師陣3名、他の塾生6名がモニターとなり、当該2名の塾生に考えを披露頂き、そして実際に体験し、評価・検証を行いました。

専門家からは今後の取組に向け新たな視点と方向性を示していただき、また、他の塾生からは自身が顧客となった視点と、また自身が評価を受けることも想定した視点で、積極的な評価と意見が交わされました。このモニター検証会は、検証を受けた塾生2名にとっては、今後の取組に向け具体的な要素の肉付けや、改善に取り組む必要性を感じ、一方、他の塾生は自身の取組に置き換え各自が思考や取組を深化させる場となり、非常に有意義であったものと思います。



【最終報告会】2/16（木）11:00～15:00 @島根大学 松江キャンパス（松江市）

昨年9月から約半年間、知識習得講座や先進事例の視察調査で観光事業に関する知識を習得し、改良に改良を重ねた塾生個々の企画したプラン（事業計画・旅行商品企画等）を発表する最終発表会が開かれました。当日は会場（一部オンライン）にて11名の塾生よりそれぞれがポスター形式で発表しました。プランには大山町の一棟貸し宿泊事業やホテルを使った石見神楽コンシェルジュの提案、「山陰らしさ」「山陰ならではの」を伝える地元テレビ局を使った観光動画プロジェクト等、様々なテーマで発表されました。また先般モニター検証で行われた「さばしゃぶ」や「薬膳茶」も当初のプランよりもぐっとブラッシュアップされた企画が披露されました。

一般聴講者は、山陰地域の観光事業者（観光団体・宿泊業等）、自治体等約15名に参加いただき、塾生の発表後には、積極的な質問や観光の実情について聴講者との対話が生まれ、塾生自身、発表により新しい発見のある貴重な機会となりました。

発表後の修了式では、島根大学 増永副学長より塾生一人ひとりに修了証が手渡され、服部学長と当機構 代表理事の福井より塾生へそれぞれ祝辞が述べられました。「今日は始まりであるので、それぞれのプランを具現化できるよう、期待している。地域のリーダーとして、今後も活躍してほしい。」等の挨拶を受け、塾生代表の大田市観光協会 平田さんからは「全国の専門家より貴重な話を聞くことのできる貴重な機会をいただいた。本当にありがたい。今後は各々のプランを具現化できるよう頑張りたい。またこのいただいたご縁を今後も繋げていきたい。」と伝えられました。今後の塾生の企画の一つ一つが具現化できるよう、当機構も引き続き支援してまいります。



▲塾生代表挨拶
平田さん



訪日外国人に使ってみたい！やさしい日本語研修会 参加者募集

外国人観光客のおもてなしにおいて、簡単な日本語が通じるお客様に出会うことがしばしばあります。観光客の多様化が進むと、相手の母国語での対応が益々困難になることが予想され、日本各地でも訪日外国人の対応において「やさしい日本語」を活用する動きが広がっています。

そこで、鳥取県においても、普段使っている日本語が、どうすれば外国人が理解しやすい「やさしい日本語」になるのか、第一線で活躍する専門家に説明いただく研修会を実施することといたしました。下記の日程で実施しますので、ぜひ、お気軽にご参加ください。

日時：3月14日（火）14:00～15:30 オンライン開催（Zoom）
 対象：鳥取県内の宿泊施設、飲食店、土産物店、交通事業者、観光関連事業者等
 講師：やさしい日本語ツーリズム研究会代表 吉開 章（よしかい あきら）氏
 主な内容：☆訪日外国人対応における「やさしい日本語」の必要性
 ☆「やさしい日本語」を使用する際のポイント
 ☆「やさしい日本語」文例集を活用した外国人への対応方法
 申込期限：3月7日（火） 主催：鳥取県交流推進課
 申込・詳細はこちら <https://www.pref.tottori.lg.jp/308873.htm>



『地域の観光人材のインバウンド対応能力強化研修』に関する動画公開中

当機構では観光庁と連携し、全国通訳案内士を講師とした研修をR4年2月及び9月に実施したところですが、観光庁のサイトにおいても動画が配信されています。外国人のお客様に伝わる接遇の基本から、日本人と外国人の常識の違い、外国人受入時、地震等緊急時に備える基礎知識、最小限の単語に身振りや表情を加えた言葉に頼らないコミュニケーションのコツなど、様々なメニューが用意されています。

また、初級英会話の他、施設の案内や客室の説明、レストラン・飲食店等、シーンに応じた中級英会話や、地域の受入実情等に応じ、初級中国語会話、初級韓国語会話などが公開されています。

ぜひこの機会にごらんください。 <https://www.jlicensed.com>

【公開されている動画】

- 基礎知識1、基礎知識2
- 初級英会話、初級中国語会話、初級韓国語会話
- 中級英会話：受付と精算、施設の案内、客室の説明、レストラン・飲食店、商業施設（人気の土産物）、モデルガイディング



観光関連統計等

山陰への外国人延べ宿泊者数 ※観光庁宿泊旅行統計調査（従業員10人未満の施設を含む）

期間	山陰への外国人宿泊者数（鳥取/島根）	比較
2022年11月	3,810人泊（鳥取2,260人/島根1,550人）	（2021年11月）1,470人泊 （2020年11月）2,810人泊
【参考】日本全体の現状(2022年11月) （速報値）	3,824,330人泊 ※観光庁宿泊旅行統計調査 https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryoutoukei/shukuhakutoukei.html	（2021年11月）340,550人泊 （2020年11月）434,130人泊